

感じ方・考え方は人それぞれだから

5年生のある学級で、みんなで少し考えてみたい・理解してほしいことを題材に取り上げました。整理してまとめてみましたので、お読みください。

◇次の出来事はいじめだと思えますか。いじめだと思わなかった人は「0」を書きましょう。いじめだと思った人は「1」～「5」の5段階でいじめのひどさを表してみましよう。ただし「5」が一番ひどいものとします。

- ①席がえをしたら、Aさんはあまり好きじゃないBくんととなりになったので、机を少し離している。
- ②休み時間にCさんとDさんが話をしているところに、Eさんが近付いてきたので話をやめた。
- ③お楽しみ会の「フルーツバスケット」で罰ゲームになってしまったFくんに、罰ゲームで歌を歌うようにみんなでせまったら、Fくんは泣き出してしまった。

以上のような、架空の出来事ではありますが一般的に起こりそうな事例を用意して、子どもたちそれぞれが0～5の段階を付けました。その結果の例から3つ。

| 事例/段階 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------|----|-----|-----|----|----|----|
| ① | 3人 | 9人 | 11人 | 4人 | 2人 | 2人 |
| ② | 5人 | 12人 | 6人 | 5人 | 2人 | 1人 |
| ③ | 5人 | 8人 | 4人 | 9人 | 2人 | 3人 |

『いじめは、やられた人が「いじめられた」と感じたらいじめである』というのが基本であり、そもそもいじめの程度を0～5の段階で表すのは適切でないのかもしれませんが、子どもによって上の表のように考えが分かれてしまうものです。

「0段階だ（いじめじゃない）な」と思っている子が、「5段階ぐらいひどい！」と思っている子に事例のようなことをしてしまったら、自分が思っている以上に相手を傷つけてしまう…、相手の痛みに気付かない…、ということになってしまうかもしれません。逆に、「0段階」や「1段階」程度に考えた子は、「自分だったらそれぐらい大丈夫」という強い子なのかもしれません。**その場面だけを見るといじめのように見えても、実は違った意識や理由、背景があるのかもしれない。**



この授業は、「これはいじめかどうか」「いじめはいけないよ」ということが中心なのではなく、子どもたち同士でも**人によって感じ方・考え方が違う**のだということの例として、今後の学校生活へ生かしていけるようにと考えました。

どの学級で行っても、考え方にばらつきが出るものです。同じ段階を選んだ子ども同士でも理由や感じ方に違いがあることから、本当にそれぞれなのだと思います。相手との考え方の違いを意識して、友達とかわり合っていたら気持ちのよい学校生活になるのではないかと考えています。

◇子どもたちのふり返りから

- ・人によって考えることが違うということがよくわかったので、これからは人の気持ちを考えていこうと思います。
- ・自分は平気だからではなく、相手がどう思うのかということを考えて行動しないといけないと思いました。
- ・これからも友達的心と向き合って「いじめ」などにならないようにしていきたいです。
- ・決まったルールで罰ゲームだからって、みんなでせめたらだめだと思う。相手の様子とかから気持ちを考えたい。
- ・同じ出来事でも、いじめと考える人と考えない人がいるのがよくわかったので「相手意識」を常にもった方がいいと思った。